

# 平成 29 年度農作物病虫害発生予察技術資料第 2 号

平成 29 年(2017 年) 7 月 4 日  
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

## アワヨトウの多発生と対策について

6 月下旬に県内で幼虫が多発生し、飼料作物およびイネにおいて被害が確認されました。今後もイネ科作物、飼料作物、芝等で被害の発生が懸念されます。

つきましては、下記のとおり、ほ場での発生に注意するとともに発生があった場合は必要に応じ対策を講じてください。

### 記

1 対象作物 イネ科作物（イネ、とうもろこし等）、飼料作物、芝 等

2 発生状況

(1) 県内（山口市、萩市、防府市、美祢市、下関市）の飼料作物（イタリアンライグラス、ソルガム）および一部のイネにおいて幼虫が多発生し被害が確認された（図 1）。

(2) 中国地方各県において多発生した本虫幼虫による作物への加害が確認されている。

3 今後の予想

(1) 発生地域 県内全域

(2) 発生時期 7 月以降（7 月下旬頃から次世代による加害が発生）

4 防除対策

(1) イネ

ア 水田の周辺地域で多発生している場合は、水田を深水で湛水し幼虫の侵入を防ぐ。

イ 既に水田内で幼虫が発生している場合は、水田を深水で湛水し被害を軽減させ、幼虫の移動を防ぐ。

ウ 今後、水田内の発生に注意し、幼虫発生初期（若齢幼虫期）の防除に努める。

(2) その他の作物

発生が認められる場合は、農薬の使用基準により本虫またはヨトウムシ類に適用のある薬剤で防除を行う（表 1）。

5 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除を行う場合、防除効果が高い若齢幼虫期の防除に努める。

(2) 本虫は主にイネ科作物を加害するが、ゴルフ場の芝、雑草地、河川敷、道路の法面

等でも発生することがある。

(3) 本虫は、一度多発生した同じほ場には産卵せず、次世代は他へ移動分散する傾向がある。このため、多発生したほ場の周辺では発生に注意する。

## 6 参考

(1) 若齢幼虫の体色は淡黄緑色であり、成長すると体色は暗緑色～黒褐色に変化する。多発時には黒色になることが多い。老齢幼虫の体長は45mm程度で、体側に明瞭な筋がある(図2)。

(2) 本県内において、過去にも本虫の多発、被害発生事例がある。

(3) 成虫は温暖な地域から長距離飛来することが知られている。本年の多発は突発的であるため、成虫が長距離飛来した可能性がある。



図1 イタリヤンライグラスを加害する幼虫



図2 老齢幼虫

表1 アワヨトウの主な防除薬剤一覧(平成29年7月現在)

作物名	系統	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
いね科 牧草	1B	MEP乳剤 50%	スミチオン乳剤 (普)	1000倍,100~300 リットル/10a	収穫14日前ま で	2回以内	散布	2回以内	
とうもろ こし	3A	シベルメトリン乳剤 6%	アグロスリン乳剤 (劇)	1000倍,100~300 リットル/10a	収穫7日前ま で	3回以内	散布	3回以内	飼料用含 まない
		エトフェプロックス 乳剤 20%	トレボン乳剤(普)	1000倍,100~300 リットル/10a	収穫7日前ま で	4回以内	散布	4回以内	